世界を変えよう基金報告書

参加団体名：IGEEI（Institute for Global Education Exchange and Internship）フィリピン タナイ
参加メンバー：医学群看護学類4年 有馬 詩織、榊田 有希
活動内容：デイケアセンターで3〜5歳児への衛生教育と文化交流
活動期間：2018年8月5日〜8月21日

IGEEIとWASHプログラムについて
WASHプログラムとは国連のSDGsの開発目標の一つである、安全な水とトイレを世界中にという目標を目指すプログラムでUnicefが支援し推進している。今回参加したデイケアセンターは就学前の児童を対象にフィリピンで行なっている教育プログラムで、衛生教育をおこなうことによって衛生環境改善を目指している。IGEEIはWASHプログラム推進し、様々な活動を行なっている団体である。

タナイの環境
私達が活動を行なったタナイ（8月）の環境は、気温30度前後で蒸し暑さは日本と似ており、1日に2回スコールが降る。フィリピンの夏が3〜5月であるため私達が行った時期は過ごしやすい気候であった。首都マニラからは車で約3時間程度のところにあり、公共交通機関はジプニーという乗合バスとトライセクルが主流で一部の富裕層は自家用車を使用していた。タクシーは都市部では利用していたが、タナイで利用している姿は見られなかった。信号はなく、道路を横断するときは、手を挙げて渡る事が主流になっていた。一部地域では信号機が使われていたが歩行者は信号を守る人がいなかった。家屋はコンクリートや木造の家が多く、窓が設けられていない家も多くあった。街には多くの学校があり、子どもが多かった。人通りも多く、マーケットには多くの買い物客が見られた。

活動内容

WASHプログラムの内容は大きく分けて5つ、Importance water, Water pollution, Sanitation, Germs, Hygineの項目で、現地ボランティアスタッフ3人と海外ボランティアスタッフ私たち含め4人でアクティビティの内容を話し合い子ども達に教えた。対象年齢3〜5歳ということもあり、ダンスやクイズ、ペインティングを用いて伝えた。手洗い指導は実際に一緒に手洗い方法について指導した。

文化交流
食事は現地スタッフと作った。フィリピンの人にとっての食事はとても重要ではないかと感じた。スペインの植民地だった歴史から、ナイフを使うことはなく、スプーンとフォーク、又は手を使って食べるカマヤンという食べ方をする。

バナナの葉の上で食事をするフィリピンの伝統料理

今回私たちが、フィリピンのデイケアセンターで手洗い指導などをすることにより、フィリピンの子どもたちへ日本という国や文化について少しでも興味を持ってもらったと考える。
日本・フィリピン・ドイツのボランティアスタッフとライフスタイル、価値観などの違う中で共同生活を行い、どうすれば上手くいくかを考えることで、協調性や責任感の必要性について考えさせられた。また、発展途上国が抱える公衆衛生の課題を知り、その環境下で暮らす現地の人たちの特性に合った関わりや効果的な教育方法を考えていく事の難しさを知った2週間だった。今回感じた事を、今後看護師・保健師として働く際に活かして行きたいと思う。